



スレッド式ろ過装置設置例



MTG×2台並列設置 (RO膜前処理・日量5,500m³処理)



MTG×2台並列設置 (プロセス水処理・日量4,000m³処理)



MTG×4台並列設置 (英国浄水場・日量16,000m³処理)



MT44P×2台並列設置 (米国下水最終処理・日量1,400m³処理)



MTG×3台並列設置 (英国浄水場・日量12,000m³処理)



MT44P×1台設置 (国内浄水場・日量700m³処理)



MTG×6台並列設置 (英国浄水場・日量25,000m³処理)



MT22P×1台設置 (広島県内浄水場・日量200m³処理)



MTG×1台設置 (英国浄水場・日量3,000m³処理)

製造元



Amiad Water Systems 社

日本総販売代理店

アルテック株式会社

本社 〒104-0042東京都中央区入船2丁目1番1号住友入船ビル2F

tel:03-5542-6753 fax:03-5542-6766

URL <http://www.altech.co.jp/>

より詳しい情報は <http://www.filtomat.jp>

(公財)水道技術研究センター認定 濁度低減とクリプトスポリジウム除去の決定版

スレッド式 ろ過装置



浄水技術の 新時代到来

アルテック株式会社

使用および外観は、改良のため予告なく変更される場合があります。



地下水、湧水、伏流水の濁度低減とクリプト対策に最適です

スレッド式ろ過装置「MTG」の6大特徴

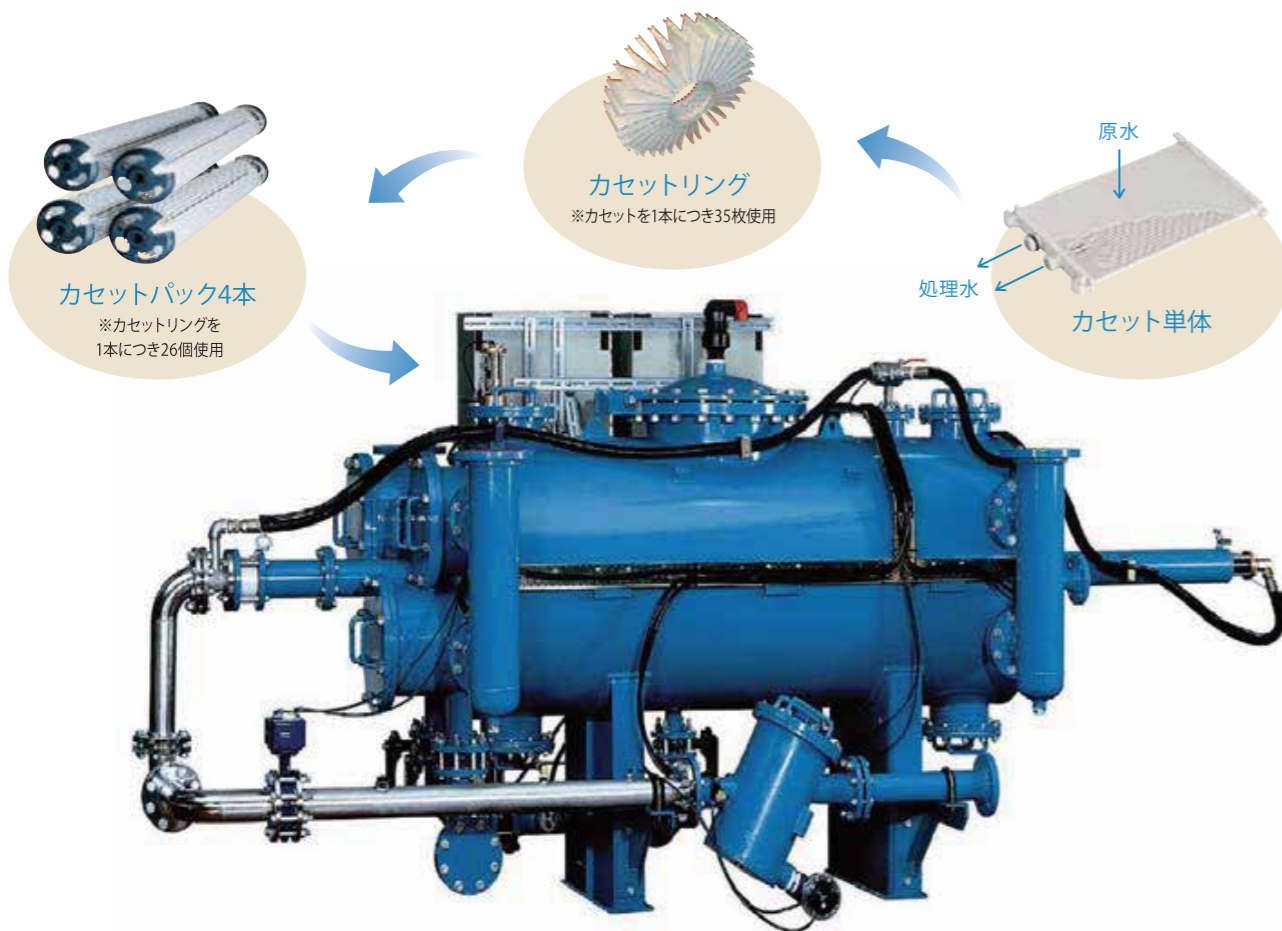
- 1 目開き3ミクロンで大孔径膜並みのろ過精度
- 2 クリプト除去率99.9%
- 3 驚異の回収率99.5%以上^{注1}
- 4 2,000~3,800トン/日処理 (MTG機)
- 5 小型、屋外設置可能
- 6 低価格・低維持管理費^{注2}

注1：標準洗浄頻度(1回/日) 注2：自治体でもメンテナンス可能

濁度低減とクリプトスポリジウム除去の決定版!

原虫(5μm・8μm)は、次亜塩素酸ソーダによっても死滅しないため、ろ過装置による除去対策が最も有効です。一度感染事故が発生すれば、各世帯の飲料水の確保だけでなく、病院、飲食店、公共機関、また、観光地であれば宿泊客やホテルにも影響を与え、人命に関わる被害につながります。これまでは膜ろ過がベストとされてきましたが、コスト面、運用面に課題がありました。スレッド式ろ過装置は、そのような課題を克服し、砂ろ過と大孔径膜の長所を取り入れた新しい発想の濁度低減とクリプトスポリジウム除去に特化した『水道用浄水装置』です。

※英国では、水道検査機関WRcがスレッド式ろ過装置をクリプトスポリジウム対策装置として認定し、既に水道などで80台以上が設置されています。

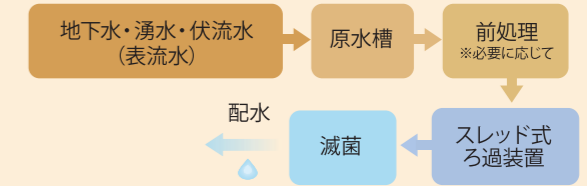


スレッド式ろ過装置「MTG」の外観

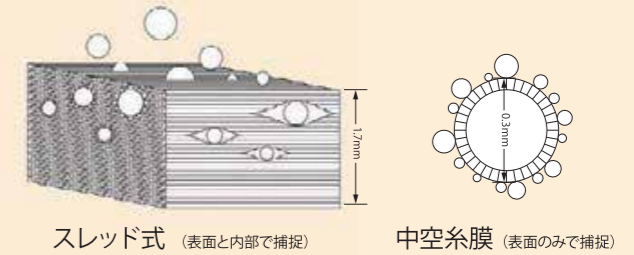
スレッド式ろ過装置仕様概要

項目/形式	MTG-JW	MT44P-JW	MT22P-JW
最大流束 (m ³ /m ² ・日)	135	135	135
最大処理流量 (m ³ /日)	3,800	900	300
ろ過精度 (ミクロン)	3		
クリプト除去率	99.9%		
回収率 (洗浄1回/日)	99.5%以上		
洗浄排水量 (回当りm ³)	3~5	1.3~1.5	0.6~0.8
洗浄ロジック	差圧・タイマー		
運転圧力(MPa)	0.04~0.1		
洗浄時間 (回当り)	12分~15分		
カセットパック数	4	1	1
最大耐圧(MPa)	1		
最大圧力損失(MPa)	0.02		
接続 (JISフランジ)	200A	100A	50A
運転時重量 (kg)	3,000	1,050	650

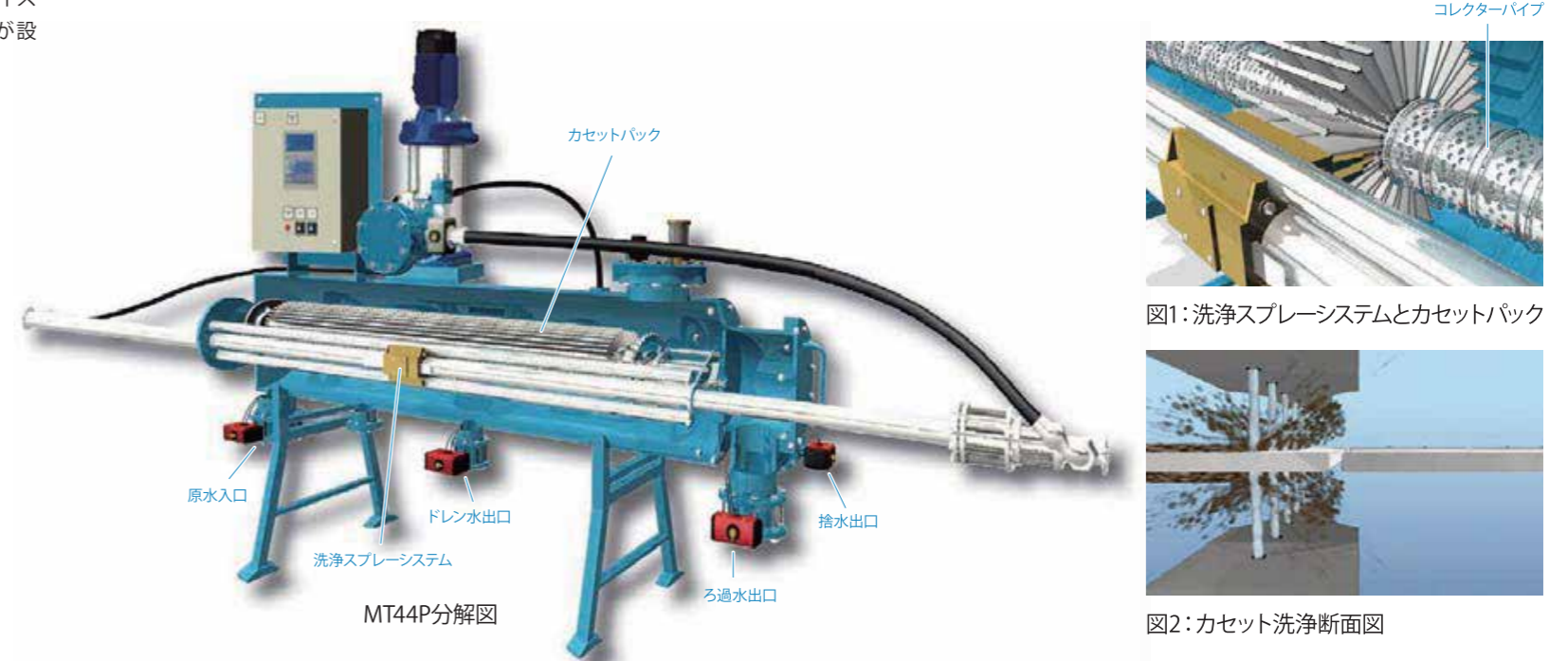
運用フロー例



スレッド式と中空糸膜のSS捕捉方法比較



スレッド式ろ過装置「MT44P」運転概要



- 1 原水は原水入口から装置内部に圧送され、カセット(ろ材)の外側から内側へとろ過されます。ろ過水はコレクターパイプに集まりろ過水出口へと流れます。
- 2 微粒子はカセットの表面及び内部において捕捉され、設定差圧値もしくはタイマー時間に到達すると自動的に洗浄工程が開始されます。
- 3 洗浄は通水をいったん停止して装置内部を排水し、次に洗浄スプレーシステム(図1参照)からの高圧ジェット水によるジェットスプレー(図2参照)をカセットに吹き付けて、カセット表面及び内部に堆積した微粒子を確実に除去します。
- 4 全てのカセット洗浄が完了すると自動的に捨水行程に移ります。捨水はハウジング内の微粒子を洗い流し、捨水行程が完了すると再びろ過運転行程に戻り、次の洗浄開始まで待機します。

※より詳細なるろ過の仕組みや洗浄動作については「フィルトマット」製品ホームページ(www.filtomat.jp)にて動画で紹介しています。